

いま、会計学がおもしろい

2000年度公認会計士の本学合格者数は60人で、全大学中3位(1位慶大132人、2位早大90人)と、過去最高の合格者を出した。21世紀に入り、いま各大学とも公認会計士に対する取り組み方に大きな変化が出てきた。いったい、どう変わっていくのか。あるいは今後の公認会計士はどうあるべきか。このへんの話を軸に北村敬子・商学部長から、お話を伺いました。

(聞き手・学生記者 船橋智、柿元理栄)

北村商学部長に伺う



現在、会計学の世界で大変革が起きています。どういう大変革かというところ、「会計基準」が変わりつつあることです。企業の国際化により、企業の海外進出が促進されています。一方で企業は現地の会計基準に従い、利益等を計上していました。これでは日本と基準が違う国が多いわけですから、企業にとっては「コストがかかってしまいます。なおかつ、「も のさし」である会計基準が違っているのは、企業の業績判断もできません。そこで、日本の会計基準を変えることで国際基準に近づけようとするわけです。この国際基準というのは、会計士が作っているのです。ですから会計士というのは、一國のなかで働いているだけでなく、国際的に

がんばれ
三浦姉妹

公認会計士も 同時合格めざす

中央大学には、2万5千人の学生がさまざまな目的を持ちながら、キャンパスライフを送っている。なかでも同学部、同学年、同目標を持つ、何から何まで「同じ」の双子の仲良し姉妹がいる。商学部の3年生で公認会計士をめざす2人は、1年生の昨年11月に、日商簿記1級を同時合格という快挙をなし遂げ、学内の話題となった。そして、その目標を達成した後も、次の超難関といわれる公認会計士の資格に挑戦すべく頑張っている。いったい彼女たちが何がそうさせるのか。どんな勉強から、そんなパワーが出てくるのか。

たまにはケンカ でストレス解消

「姉の三浦志津です。会計学科です」といわれても、「妹の三浦奈緒です。経営学科です」といわれても、セーターの色以外はすべて同じ。相

手を「志津ちゃん」「奈緒ちゃん」と呼び合い、とにかく仲がよい。生まれた時から小学、中学、高校、大学と一緒に、当然といえはいる。2人は高校時代に、いくつかの大学のオープンキャンパスに参加している。「大学まではさすがに同じ学

活動することが求められるのです。したがって、公用語である英語が必要不可欠になってきます。海外では、すべて英語でやり取りされているわけですから。しかも、打ち出されている基準を理解し、適用させるだけでなく、基準作りに参加することこそ重要になってきます。そうでないと、すべてがアメリカ型や欧米型になってしまい、日本の考え方が含まれないことになってしまいます。日本の会計士が基準作りに、参加しなければならぬ現状になっています。

国際的な視野求められる

ということ、公認会計士の役割は間違いなく大きくなっていきます。さらに会計領域もどんどん拡大しているのです。それは、どういうことかということ、いま地球環境の保護が叫ばれています。これについても環境会計、さらには企業が環境に対しどれだけ貢献したかを測定し、報告することが行われているのです。こうなってくると、いままでの単なる貨幣額中心による評価だけではなく、大気汚染の数値なども理解しなくてはならないようになってきます。

会計とは、ただ単に業績を数値で表しているだけではないのです。数値で写し出したものが、企業そのものの行動を変えたり、企業に投資しようとする投資家や株主の行動を変えるのです。これが面白いのです。人間行動に結びついているのです。さらには企業だけではなく、国にも影響を与えることが出来るのです。

このように会計の領域は広がる一方です。これに十分に対応できないといけないし、なおかつ国際的に活躍できるような会計士が求められているのです。いまや、あらゆる面で会計が影響を与えているのです。それを担う会計士も高い視野から判断する資質が求められているのです。

いま、会計学を勉強すると、すごく面白いですね。積極的な4年間を過ごしてください。

(談)

校はイヤだったので、受験期間中は願書提出までずつと志望校を内緒にしていたんです」と姉の志津さん。中大を受けようと思いついた動機までも一緒に、「まず、大学が自然に囲まれていて、校舎も綺麗であることが魅力的だった。また、自分が勉強したい学科があり、家が大学に近い」と2人は口をそろえた。



ウリ二つ。左が姉の志津さん、右が妹の奈緒さん

「小さなことで、よく喧嘩してます」といつてくれた。「なるほど、これがストレス発散法なんだな。仲良しの秘訣はこれだ」と、勝手に納得する。取材の場では、絶えずお姉さんがリードし、奈緒さんが同意する側に回っていた。

人の支えと自分自身の目的意識

ここで、ちょっと意地悪な質問を試してみた。「お互いをどう思っているの」と聞いてみた。すると、妹の奈緒さんが「姉はやっぱり長女的です。自己中心的なところがあつて……」。すると、お姉さんからは「妹はちょっと人見知りするかなあ。本当は私よりハシャグの」とやり返す。

2人の目標は、いまや公認会計士挑戦する人が多い代わり、途中でリタイアしてしまう人もかなりいる。目標を達成するような人は、人の支えと自分自身の明確な目的意識が不可欠となる。彼女たちにとっては「公認会計士という仕事は、一つの業界だけでなく、多くの業界で活躍できるので、広い視野を持てるし、男性と対等な環境で働けるのが、なによ

りの魅力です」ということになる。

姉妹の話は、どこまでもハモる。「大学までは、さすが同じ学校は避けようとしていたため、願書を提出する時期までは、お互いはずっと志望校を内緒にしておいた」（姉）というが、ところが中央大学について感じた印象では2人は一致した。「まず、大学が自然に囲まれていて、すごく綺麗であることがなにより魅力的でした。また、自分の勉強したい学科があり、幸運にも家が大学に近かった」という。

結果的には2人とも中大商学部を受験したわけだが、それぞれ持っている目標は違った。志津さんは公認会計士になるため会計学科を、奈緒さんはマーケティングに興味があり、経営学科を選択した。

勉強面で〃二人三脚〃の強みを発揮

こうして2人は新しい目標に向かって、新しい生活をスタートさせ、間もなく経理研究所に入った。姉は「自分のなりたい公認会計士に一番近づけるように思って」と話せば、奈緒さんは「ただ、何となく学校に



通うのが嫌で、何かやらなくちゃと思ったのと、簿記が経営に役立つので」と入所の動機を語ってくれた。

同じ机で肩を並べた2人は、遊ぶ間も惜しんで経理研究所での勉強に励んだ。「わりと、きちんと授業に出ています。私はすごく心配性なところがあって、授業に出なきゃ単位がもらえないじゃないかって……。経理研究所は5〜6時限帯で授業をやっているので、一日中、簿記をやっているわけではないんですよ」と奈緒さんは照れぎみにいった。そんなことをいいながらも、2人は時間を見つけては勉強している。「そんなに」と思ったが、日商簿記の合格で目標に着実に前進している



喜びを知っているだけに、少しも苦にはならない。時々、勉強に疲れてストレスがたまったりすると、家族でスポーツセンターへ行って気分転換する。「ストレス解消には体を動かすことが一番」らしい。

それでも、やっぱり勉強するのがイヤになる時がある。そんな時は、研究所に先生と話をしたり、仲間た

会計の世界に新風を!!

ちの勉強している姿を見たりして、意識を高めている。

勉強をする時にも〃二人三脚〃の素晴らしさは発揮される。双方がわからない問題にぶつかった時は、そのわからないところが明確に把握できるチャンスだし、1人だと気づかないところも、相手が見落とさないという利点がある。

2人はいつでも分からないところを見つけ、次には解けるようにと勉強を続けてきた。こうした努力をしてきた結果が、大学1年の11月に発表された日商簿記1級の同時合格につながった。

しかし、それも単なる〃夢への通過点〃に過ぎない。同時合格の喜びも束の間、いま彼女たちは「国際的な会計士」になるため、会計の勉強はもちろん、英語の勉強にも力を注いでいる。

「近い将来、2人は会計の世界に新しい風を巻き起こすに違いない」
彼女たちの生き生きとした目を見ていて、そんな予感がした。「頑張れ! 三浦さん姉妹」

(学生記者〃船橋、柿元)